

～臨床情報・検体の研究利用に関するお知らせ～

**【研究課題名】** 角膜疾患における各種コンタクトレンズにおける視機能、角膜パラメーター、患者満足度の改善因子についての検討

**研究機関名** 東邦大学医療センター大森病院研究責任者

**職位・氏名** 眼科 助教・ 岡島行伸

**【研究対象および方法】**

この研究は、東邦大学医療センター大森病院倫理委員会の承認を得て実施するものです。

角膜疾患は多くは不正乱視（眼鏡等では矯正できない乱視）を有するためにコンタクトレンズ

（以下 CL）を処方されます。CL には大きくソフトコンタクトレンズ（以下 SCL）とハードコン

タクトレンズ（以下 HCL）が用いられ、その大きさ、形状、素材などは様々である。そこで、

東邦大学医療センター大森病院ならびにけやき眼科クリニックでは今回、角膜疾患を有し CL を

処方した患者において、CL の種類、大きさ、素材により視力、角膜形状、収差、日常の見え方

等を診療録から後ろ向きに検討し、視力改善と患者満足度に影響を与える因子を特定することを

目的として本研究を計画しました。この研究で得られる成果は、患者様に対してよりよい医療を

提供するための情報を発信できることにつながります。対象者：2010年4月～2021年12月

までに東邦大学医療センター大森病院眼科において、角膜疾患で各種コンタクトレンズを処方さ

れた方の診療録（カルテ）から抽出したデータを解析します。

### 【研究に用いられる試料・情報】

性別、年齢、疾患名（円錐角膜、角膜移植術後等）、眼科手術歴・術式、検査施行日時、併用点眼・治療歴、併用点眼・治療歴、コンタクトレンズ種類、大きさ、素材、ベースカーブ  
コンタクトレンズ装用前後の視力、角膜形状検査結果（角膜曲率半径、角膜形状、角膜厚、前眼部光干渉装置、高次収差）、コンタクトレンズ装用前後の満足感、コンタクトレンズ使用後の合併症有無です

### 【個人情報について】

研究に利用する情報は、患者様のお名前、住所など、個人を特定できる個人情報は削除して管理します。また、今回の研究で得られた成果を、医学的な専門学会や専門雑誌等で報告することがありますが、個人を特定できるような情報を利用することはありません。

本研究に関してご質問のある方、診療情報等を研究に利用することを承諾されない方は、下記までご連絡下さい。その場合でも、患者様に不利益になることはありません。

### 【利益相反について】

本研究においては、研究責任者（堀裕一）が得ている講座研究費を使用します。研究者の中で堀裕一は眼科点眼治療薬の製薬販売企業から、講演料並びに研究寄付金を受けており、また岡島行伸はコンタクトレンズ会社より研究寄付金を受けており利益相反があります。本研究は研究者主導で立案した研究であり、特定の製品、素材との比較した研究ではありません。またデータの解析は利益相反のない研究者が行い、相互にデータをチェックできる体制で行います。このため利益相反状態であっても研究成果の客観性は保たれると考えられます。

### 【連絡先および担当者】

東邦大学医療センター大森病院 眼科

職位・氏名 助教・岡島行伸

電話 03-3762-4151 内線 6710